

銀杏

発行所

〒792-0835
新居浜市山根町8番1号
曹洞宗瑞應寺専門僧堂
編集発行人 村上 徳 存
電話(0897)41-6563
FAX(0897)40-3127

毎月1日発行
(振替 01330-2-31918)
瑞應寺
印刷所 東田印刷株式会社

コロナ禍中

―日面佛・月面佛―

住職 村上 徳 存

お彼岸を過ぎて、少しの
ぎ良い季節になりました。各
地で秋祭りなど、秋の収穫を
感謝する頃です。

コロナ禍中にて、今年の秋
祭りも自粛ムードで淋しい限
りです。山内の行持も簡略縮
小となりました。

コロナウイルスも変異株で
感染拡大が進んで、まん延防
止の為、外出自粛、制限され
ています。

中国盛唐の時代、禅宗の盛
んな時代、馬祖（七〇九〜
七八八）が居られた。晩年に近
く、病んで四大不調であった。

「院主問、和尚近日尊位如
何、大師云、日面仏、月面仏」
という問答が残されている。

院主とは、その寺の事務一切
を主宰する者、監院、監寺とい
う。その院主が、和尚、その寺
の主人公の馬祖大師に問うた。

馬祖大師は、道一という諱
で、「南嶽磨磚」の話で心印を
得て、開元寺に開法し江西を
中心に教化し、

「平常心是道」「即心是仏」を
標榜し、大機大用の禅であっ
た。門下、百三十余人を打出
した。江西に馬祖、湖南に石
頭が多く、多くの禅客を集めて、江

湖に集まった禅者が禅宗の叢
林を形成され、その状態を江
湖会という。その江湖が伝え
られて今日、一ヶ寺の住持の
晋山式を江湖会というように
なった。

監寺和尚が馬祖の四大不調
を問疾した処、
「日面仏、月面仏」と答えられ
たのである。

日面仏は一千八百歳の長寿
を保つとされる仏。月面仏は、
一日一夜の寿命を保つとされ
る仏。馬祖のこの答えは、「紅
炉迸出の鉄蒺藜」（敵の進路を
防ぐことに用いた武器、禅宗
の指導が厳しく侵しがたいこ
とをいう。）のようなことで、
凡聖聖解の沙汰を超越して何
ともかとも分別の及ばず、言
詮の到らぬものでありました。

その処を宏智禅師は

「日面月面。星流れ電巻く。鏡、
像に對して私無く。珠、盤に
在つて自ら転ず。君見ずや、
鉗槌の前百鍊の金。刀尺の下
一機の絹」と詠せられている。

無常の世の中は、日面・月
面であり、長くもあり、短く

もあり、星が流れ、電の、巻
く、瞬間の間でもあり、鏡が、
世の相を映すが如く私がない。
珠が盤の上を自ら転ずる
が如く自由自在である。鍛冶
工が鉗槌を以つて鍛えあげ
て、どんな物でも作り上げて
いるように、又裁縫士が、一機
の絹をもつて衣服を作るよう
である。

馬祖が、常日頃説いている
「平常心是道」「即心是仏」の具
現化であり、人々皆、本来、



開山忌正當諷經

持つている。自受用三昧の具
体化するに他ならない。
コロナ禍中、自粛を要請さ
れ、不要不急の外出をしない
で、各々の、日面仏、月面仏
に参究してみても、如何であ
ろうと思う次第である。

住友供養は住友連系各社代
表と役員出席、山内行持とし
て行う。

開山忌も、連夜、献粥、正
当共に、山内行持として行う
予定である。 合掌

テレホン法話(〇八九七 四一・〇〇三三)

禅のたより



◆ すべてのことは、

おかげさま

今月はお盆ですね。私たち僧侶はお盆と言えば、棚経とも言われるお盆のお参りで、檀家さんを地区ごとに分けて毎日何十軒も廻ります。

このお盆参りでいちばん思い出すのは、昭和五十四年、私が高校二年生の夏のことです。その年、私の師匠である父はガンの手術をしました。

退院を前に、母は私に「今年は一緒に廻りなよ」と说得します。「もう来年はお父ちゃんとは居らんよ。檀家さん覚えとかないかんやろ」。私が「一回廻ったくらいで覚えられへんわ」と口答えをすると母は「あんたが覚えてくれないわな!」と尤もなのですが、嫌で嫌でしょうがない

わけですから納得はできません。

そんなことを言い合っているうちに、とうとうその日がやって来ます。本当のことを伝えていない父には、手術後大変なので一緒に声を出してあげるという名目で、父の後についてお盆参りをする事になりました。

初日は七十軒ほどの檀家さんが固まっている地区です。朝七時前から父についてポンポンとリズム良く廻っていきます。

初めの何軒かは、お仏壇の前には座布団が一枚しか用意されていません。「弟子を連れて廻ります」なんてことはお知らせしてませんか、当然のことですね。しかし、九時を回った頃から座布団二枚、飲み物二人分、なかにはお布施まで包んでくださるお家もありました。昔のことですので、留守で

も鍵を懸けず、そんなふう

に用意してくださっていた

のです。

うちわを二枚持ったおばあさんもいました。「お父さんの手伝いな?偉いなあ」と一枚は私に手渡し、セルフで。もう一枚はおばあさんが手に持つて、お経の間中、父の背中を扇いでくださっていました。なぜ、うちわかというと扇風機ではお蠟燭が消えてしまうからという心配りなんですね。

父は言います。「もう伝令が廻つとるな」私が「何が?」と聞くと「座布団見てみ、もう、どの家に入っても二枚出してくれとるやろ」と。ご近所どうし親戚兄弟、何代も前からの付き合い。「おじゅっさん、今年は息子連れて来よるでえ」誰がどこに連絡するなんて決まってもいないのでしょうか、いつの間にかちゃんと隅々まで、行き渡っているのです。

次の年からは座布団一枚、団扇のおばあさんは「あーあお父さんが送ってくれると

思ったのに」といいながら、父を扇いでいたときと同じように私を扇いでくださいました。

地球は、私たちが夜寝ている間に、七十億の人間や無数の生き物、山河大地を載せて、誰が舵取りをするでもなく、ぐるりと回って東から日が昇って朝がやって来ます。暑い暑いと言ってもお盆が過ぎれば確実に日は短くなってきた、秋の準備が着々と進んでいます。本当に有難いことに、様々なことが私たちの与り知らぬところで、様々なご縁をいただいてお膳立てが整えられているのですね。

「すべてのことは、おかげさま」あれから四十二年、今でもお盆参りに行ってお仏壇の前に用意された座布団を見るとそんなことを思います。

香川県南隆寺 大石光昭師

令和三年八月十二日〜二十日

◆ もちつもたれつ

去年の夏のことです。ミニトマトを作ってみようとホームセンターへ行き、苗を選んでいくときに、ある檀家さんが「何の苗でもな、安いん三本買うなら高いん一本のほうがようけ実が成るんで」と話していたのを思い出しました。

そこで、奮発して高い苗を買って育て始めたのですが、花が咲いて実がつく頃に病気に罹ってしまった、ほんの数個獲れただけで終わってしまった。

そのトマトを見た農家の檀家さんが、「やつぱり得手不得手ゆゑもんがあるんなあ。和尚さんはお経や坐禅をしようたらええんちゃうん?ワシらは米や野菜作らせたら売れるほどできるけど、ワシが檀家行ってお経を読んでも誰も有り難がってくれんどころか、追い出されるやろ?ワハハハハーツ」と…。私を慰めてくださったんでしょけれど、

心中複雑なトマト栽培の顛末でした。

ところで、皆さん、日曜日の夕方の長寿番組「サザエさん」をご覧になりますか？いつ頃からか、あの番組のエンディングのテーマソングに載せて、原作の四コマ漫画が流れています。ちょうど、あのトマトが病気に罹ってしまつた頃に放映されていた話がこうです。

母親の舟さんが縁側で裁縫をしているところに、ワカメちゃん折紙を持って「奴さん折って！」と走ってきました。すると舟さんは「自分のことは自分でやりなさい」とピシャリ。しかたがないので、ワカメちゃんは悪戦苦闘。その横では、舟さんが針糸が通らなくて四苦八苦。そこで場面が変わって、折り紙と針を交換した二人が、難なく「できたあ！」という落ちです。

サザエさん一家の毎日のように、人はそれぞれが自分の出来ること、好きなことをしているようであり、

気が付いてみるとお世話になつたり、迷惑をかけたり。しかしながら、絶妙なバランスでちゃんと支え合つて暮らしているんですね。持ちつ持たれつです。

今、世間では「私は誰にも迷惑をかけたくない。子供には負担をかけない。自分のことは自分で」と言つて墓じまい、永代供養が大はやりです。しかし、迷惑を掛けないと言つてはいるものの、結局はすべて対価を支払つて、最終的には必ず誰かの手を煩わせています。火葬場のボタンを、お棺から手を出して自分で押すことは出来ませんよね。

われわれお坊さんのツルツル頭も、修行道場では必ず二人一組になつて「お願いします」「有り難うございます」「どういたしまして」「お世話になりました」と、わざわざ人の手を煩わせて剃り合います。慣れてくれば、自分一人で剃つた方が早く終わるし、失敗されて切つて血を出し「こいつとはもう

組まんぞ」などと思つたりしなくて済むのですが、必ず二人一組で剃りあいます。これもまた、持ちつ持たれつ、そんなことを教えてくれているのでしょうか。

世の中はもちつもたれつ、誰にも迷惑をかけないのではなく、誰かに必ず迷惑をかけていることを自覚し、感謝して暮らすことが何よりも大切なことです。

香川県南隆寺 大石光昭師
令和三年八月二十一日〜三十一日

◆ お彼岸について

お彼岸とは、真西に太陽が沈む春分と秋分の日を中日とし、その前後三日間を合計とした七日間を期間として執り行われる仏事のことをいいます。お彼岸は、初日を「彼岸の入り」、最終日を「彼岸の明け」としてこの期間の間に丁寧な供養を行います。

供養の形として菩提寺で厳修される先祖供養や家に僧侶を招いて先祖供養のお

経をあげていただくなど地域によつて色々だと思ひます。色々なご供養の形の中で私たちが忘れてはならない大切な事があります。ただ単に法要に参加する、お経をあげてもらうこれだけではなく、私たちがご供養をする時又は参加する時に先祖様を敬う気持ち、そして感謝の気持ちを決して忘れてはいけません。この気持ちを持つて供養する事が何より大切なことだと思います。

お彼岸の時期は暑さ寒さも彼岸までと言われ、とても修行のしやすい時期になります。お彼岸の彼岸とは仏の世界、此岸とはこちらの世界の事で私たちが四苦八苦する迷いの世界を表わします。悟りの世界である彼岸は遠く感じることもありません。苦しみの多いこの世で私たちは生きていく限り「これでいいのかな」とふと考えることがあると思います。そんな時に苦しみのない悟りの世界である

仏の世界を知りたく思うのは当然のことだと思ひます。彼岸への道は、布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧の修行を忘れずに歩まれれば遠いと感じた世界も意外と近くに感じられる事だと思ひます。そしてこの修行の一環として私たちは感謝を忘れずご先祖様を敬つて供養を執り行うのです。またこの時しっかりとご自身の心のあり様を見直すことも大切な時間なのです。

最近では、家族の関係が希薄になりつつあります。お彼岸の期間に家族全員でこの世に生きる私たちと、大切な亡き人とが触れ合う大切な時間にされてみて下さい。生死を越えた「つながり」の尊さを再確認し、家族団らんの時間を設け、久しぶりに家族全員で共に過ごす楽しい語らいの時間はとても素晴らしい時間となることだと思ひます。

瑞應寺専門僧堂直録 楠本剛大
令和三年九月一日〜十日

白眉殿進捗状況

写真の通り工事が進んでおります。



基礎工事



白眉殿地鎮祭

白眉殿地鎮祭



八月廿四日(火)、白眉殿地鎮祭が、総代・工事関係者参列の中、村上山主導師のもと、合山にて工事無事を祈念し厳修された。

開山忌

恒例の御開山忌、当寺開山白翁長伝大和尚より五世再中興月庭要伝大和尚の報恩供養。十日より市内一円を報恩托鉢。

廿一日、金岡監録のもと連夜特為献湯、翌廿二日略朝課罷、門原単頭を導師に献粥諷經、午時、村上山主が導師を勤め、正當献供諷經が厳修された。両日ともに、檀信徒先

亡回向を修行。

今年は、コロナウィルス感染拡大防止として、山内行持として厳修。



開山忌報恩托鉢 ▶

▼ 戒名帳読立て



寶篋印塔供養

九月廿三日(木)、村上山主以下山内大衆合山にて、瑞應寺西墓地の永代供養塔「寶篋印塔」の供養法要が厳修された。



寶篋印塔

九月の日鑑

一日 祝禱
七日 参玄会(九日迄)
十日 開山忌報恩托鉢
(十七日迄)

十五日 祝禱・略布薩
十八日 観音講・勉強会
廿一日 開山忌連夜
廿二日 開山忌正當
廿三日 寶篋印塔供養
廿八日 両祖忌連夜
廿九日 両祖忌正當
卅日 略布薩

十月の予定

一日 祝禱
五日 住友供養
十五日 参玄会(七日迄)
十八日 祝禱・略布薩
廿一日 観音講・勉強会
卅一日 略布薩

銀杏感謝録

宮城県 戸田恭子 殿
大分県 長松寺 殿
大分県 朝日寺 殿
島根県 養善寺 殿
宮城県 光徳寺 殿
福島県 長松院 殿



鐘声

学生の時、勉強していても、「こんな将来絶対使わないだろう」と思ったことがあります。それでもいい親や先生達から「勉強しなさい、覚えなさい」と言われる。

しかし、今になって考えると、勉強する内容は使わなくても勉強する習慣、暗記力など様々な事が身に付いていました。

昔、ある先生に言われたことが「経験というのは、良い経験はあっても悪い経験というものはなく、経験は全て良い経験である」というものでした。私はこれから一見意味のないと思う事であっても何か将来の自分の為になるだろうと思いい様々な事に取り組みたいです。

(菜頭徳正)

広島県 宗光寺 殿
静岡県 信香院 殿
静岡県 養源院 殿
埼玉県 清水勝公 殿
奈良県 慶田寺 殿
長崎県 東光寺 殿
島根県 西蓮寺 殿
(令和三年七月二日受付迄)